

臨床研究に関する情報の公開

作成日：2026/8/26

研究課題名	GH 産生下垂体腺腫（先端巨大症）に対する治療成績の検討
研究の対象	過去に、当院で GH 産生下垂体腺腫の診断を受けられ、経蝶形骨法により腫瘍摘出手術を受けた患者さん。
研究目的	GH 産生下垂体腺腫は良性腫瘍であるが、腫瘍が産生する GH（成長ホルモン）の過剰により、特徴的な顔貌の変化、四肢末端の肥大などが生じる。また、ホルモン異常が継続した場合は、糖尿病、心肥大、大腸癌などの全身的な合併症により、平均寿命は短いと報告されている。下垂体腺腫を全摘出すれば、ホルモン異常は正常化し、治癒が得られるため、治療法の第 1 選択は外科的摘出とされている。しかし、手術成績では、10mm 以下の微小腺腫では、手術寛解率は 80% 以上であるが、10mm 以上の腫瘍になれば 60% 以下と報告されている。手術で寛解が得られなかった場合の補助療法としては、薬物治療と放射線治療があるが、副作用や治療成績に課題がある。このことから、当院での治療成績を明らかにすることは、今後の治療戦略を考える上での有用な情報になると考えられる。そこで、過去に治療した GH 産生下垂体腺腫に関して治療成績を評価・検討する。
研究方法	術前、術後に関して、臨床症状、ホルモン負荷試験の結果、MRI などの画像データを評価・検討する。特に、術後ホルモン正常化の評価としては、コルチナコンセンサスの治癒基準である 75 g OGTT での GH の底値 0.4ng/ml 以下または旧基準での GH の底値 1ng/ml 以下と IGF-1 の正常化が、どのような症例で達成できたかを検討する。また、薬物治療、ガンマナイフ治療に関する治療成績も同時に検討する。
研究に用いる試料・情報の項目 （例：血液、検査データ、診療記録等）	① 視力障害、先端巨大症などの臨床症状、診療録記録 ② ホルモンなどの採血検査結果 ③ MRI や CT など画像検査による腫瘍の形状変化
研究期間	2022 年 3 月 1 日～現在研究継続中
外部への試料・情報の提供、取り扱いについて	原則、外部への試料・情報の提供は行いません。医療情報のデータの保管・管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
研究代表者の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
研究責任者および試料・情報の管理責任者（共同研究の場合は研究代表者）の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
上記以外の研究機関の名称	
本研究に対するご質問などについて	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
ご質問のお問い合わせ先	社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科 北野 昌彦 〒556-0017 大阪市浪速区湊町 1-4-48 TEL:06-6568-1601 FAX:06-66568-1608 Email: mkitano@tominaga.or.jp 研究代表者 北野 昌彦